

会 議 録

会議名称	令和2年度 宝達志水町認知症初期集中支援評価委員会会議録
日 時	令和2年10月14日（水） 午後1時45分 から 午後2時 まで
場 所	宝達志水町民センター アステラス 2階 研修室
出席委員	会場参加：西澤委員（委員長）、松沼医院、北村委員、細川委員、松田文委員、山口委員、板谷委員、川口委員 オンライン参加：松榮委員、曾根委員、松田英委員
事務局	（健康福祉課）一家課長、中川補佐、寺本主任社会福祉士、川端社会福祉士 （健康づくり推進室）守田主任
会議内容	1 委員長あいさつ 2 議題 （1）認知症初期集中支援チーム活動状況について （2）認知症見守り支援事業および認知症相談窓口開設について （3）その他 3 閉会
議 事	<p><議題に対する主な質問・回答・意見></p> <p>（1）認知症初期集中支援推進チーム活動状況について</p> <p>○質問 初回相談の相談者はどのような人か教えてほしい。</p> <p>●回答 医療や介護サービスにつながらず困っている家族や民生委員からが多い。また継続して関わっている認知症地域支援推進員からの相談もある。</p> <p>○質問 当町の高齢者人口から見て、認知症に関する相談ケースや初期集中支援ケースの推移はどうか。</p> <p>●回答 今年度、地域包括支援センターへの総合相談受付件数は月平均30件ある。その中で認知症に関する相談件数は月平均5件。地域包括支援センターやケアマネジャーとの連携で対応しているケースが多い。初期集中支援チームでの対応としては、困難事例を対応している。今後も認知症に関する相談で医療や介護サービスにつながらないケースは積極的に初期集中支援チームで対応していきたい。</p> <p>（2）認知症見守り支援事業および認知症相談窓口開設について</p> <p>○質問 SOSネットワーク事業の登録者数は現在10件と聞いている。見守り支援事業の新規登録件数はどれくらいか。</p> <p>●回答 新規相談件数は3件。2件登録となり、1件は入院のため、未登録。</p> <p>○質問 見守りシールを使用した取り組みは、近隣市町であるのか。</p> <p>●回答 どこシル伝言板（QRコード）を使用した取り組みは県内初である。どこシル伝言板の特徴としては、特別なアプリをダウンロードしなくても活用できるものとなっており、高齢者の多い当町では、活用</p>

	<p>しやすいものとなっていると感じている。</p> <p>○質問 国内どこで見つかっても読み取れるのか。</p> <p>●回答 そのとおり。</p> <p>○質問 シールは剥がれにくいものになっているのか。</p> <p>●回答 圧着ラベルについては、毎日洗濯したとしても最低でも2年もつ。</p> <p>(3) その他について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍である状況も踏まえ、今回、3名の委員には試験的にオンラインで参加をしてもらった。今後もオンライン会議サービスを使用した会議を積極的に取り入れていきたい。 <p>○意見 オンラインでの参加は良いと思う。会場に集まっている委員と少し温度差はあるが、慣れていけば活用できると感じた。</p> <p>○意見 オンライン会議は非常に良い方法だと思う。感染症がはやる状況でなくても、移動時間の割愛や業務の効率化を図ることができ、積極的に活用していければ良い。</p> <p>○意見 音声の聞き取りにくさはあったが、事前準備で対応できると思う。時間を決めて、しっかり報告できれば効率的な会議ができるため、良いと思う。</p> <p><次回について></p> <p>次回の開催は、在宅介護・医療連携推進協議会の開催日と併せて行う予定。来年度5月頃を予定している。</p>
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・委員名簿 ・認知症初期集中支援チーム活動状況について ・認知症初期集中支援チーム活動報告書（個別事例集積票） ・宝達志水町見守り支援事業チラシ ・令和2年度宝達志水町見守り支援事業概要 ・物忘れ相談窓口開設チラシ ・どこシル伝言板ラベル見本および貼付例